

2014年7月1日

第671回 本委員会の主要議題と概要

日本化学繊維協会

日本化学繊維協会（会長 越智 仁 三菱レイヨン株式会社 代表取締役社長）では、本日11時より第671回 本委員会を開催しました。

主要議題およびその概要は以下の通りです。

1. 正副会長の交代について

任期満了に伴い、2013年度の日覚会長、伊藤副会長、越智副会長が退任し、2014年度会長に^{おち ひとし}越智 仁 三菱レイヨン株式会社 代表取締役 取締役社長兼社長執行役員、副会長に^{あさの としお}浅野 敏雄 旭化成株式会社 代表取締役社長兼社長執行役員、鈴木 純^{すずき じゅん} 帝人株式会社 代表取締役社長執行役員 CEO、専任副会長に^{うえだ ひでし}上田 英志 理事長が選任された（上田副会長は再任）。

任期は2015年6月30日までの1年間。

2. 2013年度「化学繊維ミル消費量の調査」結果

2013年度「化学繊維ミル消費量調査」結果について、統計委員会・伊集院委員長（東レ株式会社 繊維事業管理室長 兼 経営企画室担当部長）より報告があった。

2013年度の化学繊維ミル消費量は、前年度比2.4%増の88.7万ト。国産品・輸入品別では、国産品は2.4%減の53.6万ト、輸入品は10.8%増の35.1万トと、国産品は減少、輸入品は増加となった。輸入品比率は40%と前年度比3ポイント上昇した。用途別では、衣料用は1.2%増の18.4万ト、家庭・インテリア用は6.7%増の40.7万ト、産業資材用は2.2%減の29.6万トとなり、用途別比率は衣：家・イ：産＝21：46：33と衣料用は変わらず、家庭・インテリア用で2ポイント上昇、産業資材用で2ポイント下落であった。

3. 第2回先端繊維素材（Web展）・シンポジウムについて

第2回先端繊維素材展示会（Web展）並びにシンポジウムの開催準備状況につ

いて報告があった。

- ・ Web 展示会（第 2 回）は、先端繊維の内外ユーザーとのコミュニケーションの場と位置付けて、ユーザー産業の技術・開発系の方々を中心に各社の素材・商品をアピールする。今回は、①スマートデバイスの普及を考慮し、パソコンサイトだけでなく、スマートフォン向けページも用意、②英語版ページも制作して、海外向け発信力を強化する。また、先端繊維素材が持つ特性をわかりやすく伝えるため、代表的な素材を使用した実験ムービーを制作して、先端繊維素材の特性についての理解を促す。この他、前回好評だった検索機能をさらに充実させて、必要な情報が容易に入手できる展示会を目指す。Web 展示会は 8 月下旬から約 2 か月間開催する。
- ・ 先端繊維素材シンポジウム（第 2 回）は、10 月 1 日（水）、ビッグサイト東京ファッションタウン 西館・ホール 1000（900 席）で開催する。繊維学会と共催することによって、産学連携によるオールジャパンの取組みとするとともに、海外への発信力の強化を狙う。基調講演では、山崎直子氏（宇宙飛行士）より「宇宙開発と先端繊維（仮題）」の講演を予定。
- ・ また、シンポジウム開催に合わせて、展示ブースを出展し、先端繊維素材の実物、最新情報をご覧いただけるよう準備を進めている。
- ・ 先端繊維素材シンポジウムは参加無料（但し、事前の参加登録必要）。登録受付は、8 月下旬より、日本化学繊維協会の Web サイト等で開始する予定（※受付の準備が整い次第、お知らせします）。

4. 化学せんいを紹介する学習教材への制作協力について

日本化学繊維協会は、情報発信事業の一環として未来を担う子供たちの化学繊維への興味・関心を高めるため、一般財団法人カケンテストセンターとともに、小学生向け学習教材「まんが社会見学シリーズ『大研究！化学せんいのちから』」（発行：株式会社講談社ビーシー）の制作協力を行いました。

本書は公益社団法人日本 PTA 全国協議会の推薦を得たのち、講談社ビーシーより、全国約 21,000 校の小学校および約 3,350 館の公立図書館に寄贈されます。配本は今秋を予定しており、新学期を迎えた子供たちの手に届くよう、現在最終の仕上げを行っています。

『大研究！化学せんいのちから』

第 1 章 化学せんいってなんだろう？

第 2 章 暮らしの中の化学せんい

- 第3章 化学せんいの歴史を知ろう！
- 第4章 化学せんいはこうやってできる！
- 第5章 これからの化学せんい

5. 2014年度協会活動について

別紙をご確認ください。

6. 炭素繊維協会との統合について

別紙をご確認ください。

<本件についての問い合わせ先>

担当：日本化学繊維協会 技術グループ 竹内・川名（03-3241-2312）

以上

2014年7月1日

2014年度 日本化学繊維協会活動について

1、 基本方針

- ・2012年度に策定した中期3ヵ年計画に基づき、重点活動と位置付けた、情報発信事業、連携推進事業、標準化の推進を引き続き集中的かつ継続的に実行し、会員企業の事業活動に貢献していく。併せて化繊業界が我が国の成長戦略に重要な役割を果たす潜在力を持つことを広く国内外に発信していく。

2、 主な活動内容

(1) 情報発信事業

日本化繊産業の先進性を強く国内外にアピールし、会員各社の持つ先端素材のポテンシャルを、さまざまな機会、手段を活用し、幅広く発信していく。

- ・第2回先端繊維素材シンポジウムを、繊維学会の70周年事業（ISF2014）と共催で、WEB展、実展示も含め秋に実施する。
- ・前年度企画作成した、未来を担う子供たちへ化学繊維の先端性を発信する学習まんが教材を、全国の小学校（約21,500校）、公立図書館（3,350館）へ寄贈するとともに、会員各社の積極的活用を支援する。
- ・従来から参加してきたエコプロダクツ展は、好評な教室形式をメインに継続する。

(2) 連携推進

化学繊維協会は従来から、経済産業省、日本繊維産業連盟、繊維学会、日本紡績協会、炭素繊維協会、カケンテストセンター、欧州の繊維関連クラスターや研究機関、各国の化繊協会等各種団体と連携を深めているが、今年度は、こうした団体との連携をさらに進化させ、化繊協会の主体的な事業活動を効率的かつ効果的に推進していく。

- ・炭素繊維協会との正式統合

7月1日に両団体の合意で正式統合し、先端繊維素材産業として、世界を

リードする地位を今まで以上に強固にし、発信力、総合力を高める。

- ・日仏繊維協力WGの活動継続

昨年度より日本とフランス両国政府の合意に基づき、日本の高機能・高性能繊維を中心にフランスとのビジネスマッチングや共同開発検討等に積極的に参画してきたが、日仏繊維協力WG・協力協定が前年度（5/5）正式に取り交わされたことを受け、今年度も継続して具体的な活動を進めていく。

- ・アジア化繊産業会議への参加

2015年5月に中国で開催が予定されている「第10回アジア化繊産業会議」に参加し、国際的な化繊業界の動向に関し、積極的に情報交換、意見交換を行い、秩序ある各国化繊業界の発展をめざしていく。

- ・日本紡績協会とのコラボレーションの推進

日本化学繊維協会と日本紡績協会は団体相互の理解を深め、共通する課題への対応、共同の発信事業、相互の事務局機能の効率化を進めてきたが、今年度は更に相互協力を深め、コラボレーションを進めていく。

（3）標準化事業の推進

化繊協会は、会員各社が進める先端素材の優位性を高めるため、同分野の規格化、標準化を積極的に推進支援しているが、経済産業省が進める標準化戦略強化の取り組みとも連携し、今年度は、船舶係留用高機能繊維ロープ、吸湿発熱性繊維の試験方法に関する国際標準化の継続事業に加え、新規にCFラミネート、コンクリート混合用高機能繊維に関する標準化にも取り組んでいく。

又、上記標準化事業推進のため必要な調査活動も並行して実施する。

2014年度の主なスケジュール

2014年

7月1日 化繊協会・本委員会（東京）

7月7日～11日

第2回日仏繊維協力WG（フランス）

10月1日 第2回先端繊維素材シンポジウム（東京・国際展示場）

- ・9月28日 繊維学会創立70周年記念式典
- ・9月28日～10月1日 先端繊維素材展示会
- ・8月中～10月中 WEB展

10月1日～3日

日仏繊維WGフォローアップ会合（東京）

10月24日 化繊協会・本委員会（東京）

11月20日 日中韓繊維産業協力会議（日本繊維産業連盟）（大阪）

2015年

1月14日 化繊協会・本委員会（東京）

4月24日 化繊協会・本委員会（大阪）

5月14日・15日

第10回アジア化繊産業会議（中国）

以上

(プレスリリース)

2014年7月1日

日本化学繊維協会と炭素繊維協会との統合について

日本化学繊維協会
炭素繊維協会

日本化学繊維協会（会長=越智仁・三菱レイヨン社長）および炭素繊維協会（会長=吉野隆・東邦テナックス社長）は、7月1日をもって統合しました。

両協会は、それぞれ固有の事業を通して業界の発展に貢献して参りましたが、統合することにより、発言力、総合力を高め、先端繊維素材産業の団体として、情報発信、市場開拓、規制対応、政策提言など業界団体機能を効率的かつ強力に進めて参る所存です。

手続きとしましては、炭素繊維協会を6月30日付けで解散し、日本化学繊維協会非加盟の（株）クレハ、東邦テナックス（株）、大阪ガスケミカル（株）、三菱樹脂（株）、日本グラファイトファイバー（株）の5社が7月1日に日本化学繊維協会に入会しました。炭素繊維協会の事業につきましては、日本化学繊維協会内に、「炭素繊維協会委員会」を設立し、継承するとともに、対外的には「炭素繊維協会」の名称を必要に応じて使用致します。

今後、先端繊維素材の分野で、日本が世界をリードする存在であり続けるべく、炭素繊維を含む高性能・高機能繊維について、オールジャパンの体制で情報発信事業、連携事業、標準化事業等を推進致します。

<ご参考>

日本化学繊維協会

化繊および化繊紡績メーカー21社（7月1日入会の5社を含む）の正会員で構成。1948年設立。

炭素繊維協会（旧）

東レ、三菱レイヨン、東邦テナックスのPAN系3社とクレハ、大阪ガスケミカル、三菱樹脂、日本グラファイトファイバーのピッチ系4社の正会員で構成。1978年に前身の炭素繊維懇話会が発足、1988年に炭素繊維協会に改称。

※PAN系炭素繊維 … PANプリカーサー(ポリアクリロニトリル繊維)を炭素化して得られるもので、高強度・高弾性率の性質をもつ。航空宇宙や産業分野の構造材料向け、スポーツ・レジャー分野など広範囲な用途に使われている。

※ピッチ系炭素繊維 … ピッチプリカーサー(コールタールまたは石油重質分を原料として得られるピッチ繊維)を炭素化して得られるもので、製法の諸条件で、低弾性率から超高弾性率・高強度の広範囲の性質が得られる。超高弾性率品は、高剛性用途のほか、優れた熱伝導率や導電性を生かしてさまざまな用途に使われている。

以上